

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
ホンダ テクニカル カレッジ 関東	昭和51年2月21日	勝田 啓輔	〒 356-8567 (住所) 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 (電話) 049-264-0121																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人ホンダ学園	昭和51年2月21日	高倉 記行	〒 356-8567 (住所) 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 (電話) 049-264-0121																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
工業	工業専門課程	研究開発学科(旧:一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース)	—	平成18年文部科学省告示第八十八号																																											
学科の目的	学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論習得の為、国家二級自動車整備士取得に加え、自動車開発に必要な知識及び実践力を備えた新時代に相応しい開発者を育成する事を目的とする。(開発・設計工学コース)																																														
認定年月日	平成29年2月24日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
	4年 昼間							4296.6	1306.8	615.6	2374.2	0	0																																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
490人		218人	9人	30人	4人	34人																																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 学科試験、実技試験、レポート、姿勢評価の方法: 5段階評価																																											
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月30日～8月21日 ■冬季:12月28日～1月8日 ■学年末:3月15日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件: 卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性進級要件: 進級に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 入学前教育、クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 安全運転講習、献血、学園祭 ■サークル活動: 有																																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車関連企業		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
	■就職指導内容 個別面談による進路確認と就職先の斡旋 進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>64人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>64人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人</td> <td>③</td> <td>59人</td> <td>58人</td> </tr> <tr> <td>危険物三種</td> <td>②</td> <td>54人</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>SE3級</td> <td>③</td> <td>64人</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級ジーゼル自動車整備士	②	64人	64人	二級ガソリン自動車整備士	②	64人	64人	損害保険募集人	③	59人	58人	危険物三種	②	54人	48人	SE3級	③	64人	63人																
	資格・検定名	種別		受験者数	合格者数																																										
	二級ジーゼル自動車整備士	②		64人	64人																																										
二級ガソリン自動車整備士	②	64人	64人																																												
損害保険募集人	③	59人	58人																																												
危険物三種	②	54人	48人																																												
SE3級	③	64人	63人																																												
■卒業者数 66 人 ■就職希望者数 69 人 ■就職者数 69 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																													
■その他 ・進学者数: 0人		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																													
中途退学の現状	■中途退学者 14名 令和4年4月1日時点において、在学者259名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者245名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・病気・意欲喪失等		■中退率 5%																																												
経済的支援制度	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施)、留学生についての日本語フォロー ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ※ホンダ学園賛助会奨学金 学費(半期)・・・[1/2年]495,000円、[3/4年]595,000円(いずれも無利子)を貸与。 寮費(半期)・・・[男子寮]144,000円 [女子寮]270,000円(いずれも無利子)を貸与。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載																																														
当該学科のホームページURL	http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/																																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。また、企業実習などを通じ、学校では学びきれない実践力を養うと共に、卒業生満足度調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の把握を行い、教育課程への反映を行うものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会(以下「編成委員会」という。)に報告し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

① カリキュラムの改善のため委員会を設置

② カリキュラムの改善への意見を提案

③ 組織としてカリキュラムの改善を検討・決定

④ 決定内容に応じてカリキュラムを改善

⑤ 実施結果を検証

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中妻 茂	(一般社団法人)埼玉県自動車整備振興会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
富田 英則	株式会社 ホンダカーズ久喜	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
中村 純一	株式会社 ホンダプロモーション	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田中 和弘	八千代工業株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
勝田 啓輔	ホンダ テクニカル カレッジ 関東	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
達富 由樹	ホンダ テクニカル カレッジ 関東 教務部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
茂野 泰士	ホンダ テクニカル カレッジ 関東 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中野 健二	ホンダ テクニカル カレッジ 関東 教務部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、6月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年5月24日 14:00～16:00

第2回 令和5年6月12日 14:00～16:00

第3回 令和5年11月(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会からのカリキュラム等・指導の実績として

- ① MaRIS II 導入: ホンダの販社システムを学園展開。
- ② 入学前～卒業迄の学生個々の情報共有管理: 学生に寄り添う学生指導に生かす(企業CS評価向上・退学率低減)
- ③ 研究開発「深く考える」授業展開: 今期より実験解析授業に、物事を深く考えて自分の考えを表現する訓練導入。
- ④ ICT授業・iPad導入: WEB授業・電子黒板授業展開。3Dビジュアル教材導入。今期より学生iPadまたはPC購入しICT授業展開。
- ⑤ 特に電気電子及びソフトウェア領域の求人増に対応するべく、授業内容の見直し及び教員の強化も推進。
- ⑥ 登録試験 100%合格に向けた取り組み: プロジェクト化、関西校・関東校連携。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

研究テーマに沿って企画・製作・テスト・性能結果確認までを実施する。その中の過程において、実社会の開発現場における経験豊富な企業からの学生フィードバック(ノウハウや性能確認方法など)を指導して頂く。研究開発に必要な知識・技能が得られること、そして具現化する過程の経験が学園生の強みとなり、学生卒業生に対する企業CS満足度向上につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ホンダ学園生が取得を目指す能力獲得の為、現場経験豊富な企業の社員をお招きして、学生に具現化するための考え方や手法を学んで頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
「自動車開発エンジニア特別講座」(行事)	2022年7月20日(水)、製品設計者・生産技術者の業務内容と心得の説明を受けものづくり技術者となる為の課題を認識する。	本田技研工業株式会社 社会貢献室

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学則細則

(教職員の研修)

第5条 教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研修を定期的に受けるものとする。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「アーク溶接特別教育インストラクター講座」	連携企業等: 東京安全衛生教育センター
期間: 令和6年2月(予定)	対象: 溶接経験者
内容: 高度な溶接と安全管理などインストラクタースキル教育	
研修名: 機械設計におけるプラスチック部品の強度の実務的な検討の仕方	連携企業等: 日刊工業新聞社
期間: 8月31日	対象: 教科担当
内容: 機械設計におけるプラスチック部品の強度の実務的な検討の仕方	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専修学校教員研修会	連携企業等: 埼専各
期間: 7月1日、15日、29日	対象: 教員(赴任~5年)
内容: 教育原理教育基本知識、学生コミュニケーション技法	
研修名: ヒューマンスキル研修	連携企業等: 0
期間: 8月8日~10日	対象: 中堅教員(赴任5年~)
内容: マネジメント・コミュニケーションスキル	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況について自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の志・学園の目的・育成方針・令和4年度方針
(2) 学校運営	中期計画の方針(運営方針・授業計画・運営組織・人事賃金での処遇)
(3) 教育活動	各学科の教育目標・育成人材像・教育到達レベル・カリキュラム編成・
(4) 学修成果	就職内定率・各種試験合格率・退学率・卒業生評価・在校生評価等
(5) 学生支援	就職に関する体制・学生相談に対する体制・経済支援体制・健康管理
(6) 教育環境	施設設備の整備・インターンシップ体制・海外研修体制・防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集・教育成果・入学選考・学納金
(8) 財務	主要財務数値・予算書・監査計画書
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準・個人情報保護・自己
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動・学生ボランティア
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

まず学校関係者評価委員の皆様、に、ホンダ学園の方向性として、①時代の変化や進化に合わせた教育②不変の基礎技術と実践技術力を養う③マナー・マインドを身に付けることを通じ、“世界に歓迎される人間”を目指すことをご理解頂きました。

活用状況として、①募集活動の課題から、関東地区入学者数拡大施策、②教育活動の課題から、登録試験100%達成などの施策(詳細は1-(5)教育課程編成委員会等の意見の活用状況参照)、③在校生CSから、学食・寮の満足度向上施策、④就職から、新規求人開拓施策、⑤企業CSから、低評価項目に対する施策、⑥退学率の課題から、入学前の就学意欲確認等の施策、⑦開発学科の周知不足から、モノづくりの学科としての認知拡大施策、⑧学生の第一志望内定率向上の為の施策、⑨高まる安全教育の更なる意識向上の施策、⑩入学希望者増の課題から、給付型企業奨学金制度の新規設定の施策、を実施しました。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
関谷 雅裕	株式会社 ホンダカーズ埼玉	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
森山 吉樹	株式会社 オートテックジャパン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
木村 一年	本田技研工業株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
金子 明	ふじみ野市役所	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	自治体代表
鈴木 伸夫	ホンダ テクニカル カレッジ 関東 後援会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: URL: [http://www.hondacollege.ac.jp/honda\\_e/gaiyou/jouhoukoukai.html](http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/gaiyou/jouhoukoukai.html)

公表時期: 令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校教育法に基づき、学生・保護者・自動車業界関係者など当該専門学校に関する関係者理解を深め、これらの者と連携協力すると同時に、学校教育法をはじめ、関係法令で定められた目的を実現するための公的な教育機関として、教育活動・自動車に関する情報、その他の学校運営に関する情報を積極的に提供していく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の志・学園の目的・育成方針・令和4年度方針
(2)各学科等の教育	中期計画の方針(運営方針・授業計画・運営組織・人事賃金での処遇制
(3)教職員	各学科の教育目標・育成人材像・教育到達レベル・カリキュラム編成・教
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職内定率・各種試験合格率・退学率・卒業生評価・在校生評価等
(5)様々な教育活動・教育環境	就職に関する体制・学生相談に対する体制・経済支援体制・健康管理体
(6)学生の生活支援	施設設備の整備・インターンシップ体制・海外研修体制・防災体制
(7)学生納付金・修学支援	学生募集・教育成果・入学選考・学納金
(8)学校の財務	主要財務数値・予算書・監査計画書
(9)学校評価	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準・個人情報保護・自己点
(10)国際連携の状況	社会貢献活動・学生ボランティア
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: [URL:http://www.hondacollege.ac.jp/honda\\_e/htec/kigyou.html](http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/htec/kigyou.html)

## 授業科目等の概要

(工業専門課程研究開発学科(旧：一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		図面・材料	自動車を取り扱う上で必要な材料の種類、製法、特徴、用途及び図面に関する一般知識について理解習得する。	1前	18.0		○			○		○		
2	○		基礎自動車工学	これから学ぶにあたり、基本的な自動車とは何かについて理解する。整備士にかかわる工学的な基本事項理解する。	1前	14.4		○			○		○		
3	○		自動車総論	自動車に関する物理・数学、環境、内燃機関等基礎概論を理解習得する。	1後	18.0		○			○		○		
4	○		総合自動車Ⅰ (総合自動車工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車工学の復習を行い、総合理解を深める。	1前 2前	14.4		○			○		○		
5	○		エンジン構造	原動機及びエンジン系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する。	1前	72.0		○			○		○		
6	○		シャシ構造	車体各部及び車体系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する。	1前	72.0		○			○		○		
7	○		エンジン整備	エンジン及びエンジン系電装品の点検整備、および電子制御燃料噴射装置の基礎を学ぶ。また二輪車固有のエンジンに関する機構・整備を学ぶ。	1後	50.4		○			○		○		
8	○		シャシ整備	車体、動力伝達、変速装置、走行装置、懸架装置、灯火類などのシャシ系電気装置の点検整備を学ぶ。また二輪車固有のエンジン以外の機構・整備を学ぶ。	1後	50.4		○			○		○		
9	○		総合自動車Ⅱ (総合自動車工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車整備の復習を行い、総合理解を深める。	1後 2後	12.6		○			○		○		
10	○		二輪車整備	二輪車について、エンジン、車体、電装品の理解度確認	1後	3.6		○			○		○		
11	○		機器の構造取り扱い	整備に必要な機器の動作原理・取り扱い・メンテナンスを学ぶ。基本的な作業の仕方や正しい使用法などを理解する。	1通	34.2		○			○		○		
12	○		工作作業	整備に必要な機械加工技術を理解習得するとともに、工作機器の基本的な取り扱いを覚える。	1前	23.4				○	○		○		

13	○		測定作業	整備に必要な計測機器の正しい作業方法を理解習得する。	1通	45.0					○	○	○				
14	○		実エンジン構造(実二輪構造含む)	(四輪・二輪)エンジン本体・潤滑・冷却・燃料装置・吸排気装置及びエンジン系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能と故障整備概要を理解習得する。	1前	144.0					○	○	○				
15	○		実シャシ構造(実二輪構造含む)	(四輪・二輪)クラッチ・AT/MT・サス・ブレーキ・ステアリング・ボディ及びシャシ系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能作動と故障整備概要を理解習得する。	1前	144.0					○	○	○				
16	○		実エンジン整備(実二輪構造含む)	前期エンジン系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する。	1後	151.2					○	○	○				
17	○		実シャシ整備(実二輪構造含む)	前期シャシ系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する。	1後	151.2					○	○	○				
18	○		実二輪車整備	通年の二輪車実習にて得た分解・組立方法・点検・調整方法を確実に理解する。	1後	7.2					○	○	○				
19	○		総合自動車整備実習	1年：シャシ・エンジン等に関する実習における理解度を確認する。 2年：故障探求や点検方法など実習における理解度を確認する。	1通 2通	54.0					○	○	○				
20	○		応用エンジン(ディーゼル自動車含む)	エンジン総論バルブ機構、可変バルブ開閉機構、ロータリエンジン、燃料装置、LPG、過給機など、エンジンの構造機能(応用編)及び、燃料油脂などについて理解習得する。	2前	66.6			○			○	○				
21	○		応用シャシ	シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ABS、TCS等の機能構造作動等について理解習得する。	2前	64.8			○			○	○				
22	○		自動車総論Ⅱ	走行性能、プラネタリギヤ、エンジン性能、熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ波形、軸重計算、制動性能等。	2前	34.2			○			○	○				
23	○		故障原因探求エンジン(ディーゼル含む)・シャシ	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する。電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する。整備に関する制度等の基本的な事項を理解する。	2後	45.0			○			○	○				
24	○		故障原因探求シャシ	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する。電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する。整備に関する制度等の基本的な事項を理解する。	2後	21.6			○			○	○				
25	○		新技術	自動ブレーキ等の自動運転に関する仕組み・センサー類の整備点検方法を理解する。	2前	10.8			○			○	○				
26	○		自動車検査	自動車の点検車検要領・診断機器・大型自動車・検査機器取り扱いなど自動車の検査や各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する。	2後	23.4			○			○	○				
27	○		自動車法規	法規道路運送車両法、道路運送車両の保安基準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士としての知識と技術を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける。	2前	23.4			○			○	○				
28	○		実応用エンジン(ディーゼル含む)	エンジン・可変バルブ機構、ロータリ、LPG燃料装置、過給機、ラッシュアジャスタなどエンジン新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する。	2前	108.0					○	○	○				

29	○		実応用シャシ	オートマチックトランスミッション、パワーステアリング、アライメントなどシャシ新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する。	2前	108.0					○	○		○			
30	○		実故障原因探求エンジン（ディーゼル含む）	エンジンにおける機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得実践する。電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する。	2後	97.2					○	○		○			
31	○		実故障原因探求シャシ	シャシにおける機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得実践する。電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する。	2後	43.2					○	○		○			
32	○		新技術	ホンダセンシングにおけるエーミング等の自動運転に必要な機器の校正方法などを理解する。アトキンソンサイクルの実物の分解組立を通じ構造理解。	2前	28.8					○	○		○			
33	○		実践自動車整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容などを実践し、その手法等を理解習得する。（企業実習含む）	2通	111.6					○	○		○			○
34	○		実自動車検査	自動車の検査について実習作業を通じ理解習得する。各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する。	2後	57.6					○	○		○			
35	○		安全運転	安全運転に関する心構えを認識し、今後の運転等の意識改革を図るとともに事故減少に取り組む。	1通 2通	37.8			○		△	○		△	○		
36	○		接客実務	サービスにおける接客実務の理解の幅を広げ、実践できるようにする。（SE3級）	1通 2後	36.0			○			○					○
37	○		特別講座（損害保険取得）	販社就職にニーズの高い資格：損害保険基礎単位を取得するための講座。	2前	18.0			○					○	○		
38	○		特別講座（総合自動車整備）	自動車検査業務や点検整備方法など、実践的な整備内容を知り、その手法等の理解、また、二級整備士として必要な知識の定着を最終仕上げを目指す。	2後	126.0			○			○			○		
39	○		自動車の運動力学	自動車の運動等について理解習得する。	3前後	79.2			○			○			○		
40	○		材料実験	機械材料の基本となる性質を理解する。	3前	21.6			○		△	○		○			
41	○		CATIA-DR	CATIA-V5を用いて作り上げた仕様に対して製造者が生産・加工可能な図面作成を行えるようにする。	3前	64.8			○			○			○		
42	○		CATIA-PD I	CATIA-V5を用いて3D形状を作成する。作成後にアセンブリー（組立）を行い、重心位置や体積、密度を求める。	3前	79.2						○	○		○		
43	○		CATIA-PD II	CATIAのソリッドモデリングにおける応用形状の作成法を習得する。	3後	21.6						○	○		○		
44	○		CATIA-PD III	複雑な形状の部品の3Dモデル作成能力を習得する。	3後	36.0						○	○		○		



45	○		CATIA-GSD	CATIA-V5のサーフェス機能を用いて、いろいろな曲面を作成する。	3前	36.0					○	○	○				
46	○		CATIA 総合演習	3Dモデルを元に2D図面化、及び要求仕様・生技性を加味した指示法を演習を通して身に付ける。	3後	25.2					○	○	○				
47	○		CATIA-CAE	作成したCATIAモデルについて、使用環境で発生する応力・変位を解析する手法を習得する。	3後	39.6					○	○	○				
48	○		信頼性工学	開発時における要求性能・信頼性の設計反映ロジックを習得する。仕様の性能・信頼性を解析評価するロジックを習得する。	3後	43.2			△		○	○	○				
49	○		電気電子基礎	電気電子部品のしくみや使い方を学び、実際にはんだごてをつかって簡単な回路を製作する。	3前	39.6					○	○	○				
50	○		アルゴリズム基礎	フローチャートを使って、プログラムの基礎を学ぶ。	3前後	79.2					○	○	○				
51	○		機械設計材料力学Ⅰ	自動車やオートバイ、ロボット等の基本的な機械要素を理解し、材料力学の基礎である応力の基本概念を学ぶ。	3前	36.0					○	○	○				
52	○		機械設計材料力学Ⅱ	より実践に則した部品の設計や使い方について学ぶ	3後	36.0					○	○	○				
53	○		金型Ⅰ	金型の基本概念を学ぶ。実際に自動車やオートバイ、パワープロダクツの部品に使われている例や種類、特徴や注意点を学ぶ	3後	36.0					○	○	○				
54	○		機械加工Ⅰ	旋盤、フライス盤の基本的な使い方や安全について学ぶ。	3前	86.4						○	○	○			
55	○		アーク溶接	アーク溶接の安全特別教育を行い、資格を取得する。	3前	25.2						○	○	○			
56	○		モデルベース開発基礎 (MBD基礎)	MATLAB, Simulinkを使用して、ブロック線図によるモデル作成・動作を体得する。MBD開発に使われているソフトを使用し、開発環境を実体験する	3前	18.0						○	○	○			
57	○		モデルベース開発応用	MBD開発環境にて台車型倒立振子を製作し、MBD開発フローと制御工学を学ぶ。	3後	14.4					○	○	○				
58	○		マイコン制御基礎	組み込みプログラムにより、LEDの点灯制御やモーター制御を体験し、マイコンの基本機能、使い方を学ぶ	3後	54.0			△		○	○	○				
59	○		部品開発演習	模擬開発の実践を通して製品を開発するためのフロー・ロジック・観点の習得を行う。	3後	158.4			△		○	○	○				
60	○		思考法基礎	Hondaの品質および仕事の基本の考え方を学ぶ。QCストーリーを実践する事で問題解決手法を学ぶ	3前	28.8					○	△	○	○			

61	○		SPI	企業採用試験で多く利用される適性検査SPIの演習を実施し就職に必要な読解力、基礎学力を身に付ける	3後	18.0		○		○	○						
62	○		OAソフト	OFFICEの3ソフトについて基本から応用までを学習する。	3前	54.0		△		○	○	○					
63	○		機械加工Ⅱ	機械工の基本および、NC(数値制御)工作機械により機械加工を行うための、基本的な考え方と制御データ作成の基礎を習得する	4前後	93.6				○	○	○					
64	○		音響基礎	自動車やいろいろな乗り物の騒音対策を学ぶ。音の基礎的な性質が理解でき、実際の騒音対策の手法について説明ができる	4前	21.6		○			○	○					
65	○		機械金型設計	金型の構造や特徴、加工方法について学ぶ。	4前	50.4		○			○	○					
66	○		電子制御	制御要素と電子制御の関係を理解する。自動車エンジンを例とした電子制御を学び汎用的な要素として理解する。	4前	18.0		○			○	○					
67	○		マイコン制御応用	3年次に行なってきたマイコン制御基礎を再学習し、より複雑なプログラムを作成することでマイコンに備わっている機能の理解を深める。	4前	36.0				○		○	○				
68	○		プログラム開発	CAN通信を使用して、車両の各種情報を取得するデータロガーを作成し、CAN通信の理解を深める。	4前	54.0		△	○			○	○				
69	○		卒業研究	研究テーマに沿って企画・設計・制作・テスト・結果報告まで行う。	4前後	736.2		△	△		○	○	○	○			○
70	○		実験解析法	自動車開発現場で必要な作業方法・知識についての指導。オイル成分と種類・制御・共振・品質トレーサビリティ・要因解析・加工・材料強度・応力測定	4前	14.4		○				○	○				
合計						70	科目	4296.6 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	必修科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、進級・卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	原則、全時限を履修とし、遅刻、欠席、早退に対しては補講の受講を必要とする。補講を含め全時限を履修後に試験を受験することができる。	1学期の授業期間	26週